SUSTAINER ARTISTS

Akira Wada

クリーン・サウンドで音が伸びるということが、サスティナーの最も効果的な部分だと思うんですよ。以前はとてもできなかったことでしょ。ふだんから音が伸びない伸びないと騒ぐ人は、サスティナーを一発使ってみれば、不満は解消されると思いますね。また演奏の守備範囲も広がると思う。キーボードの白玉のようなサウンドも出せるから、曲全体のサウンドやアレンジを考える時にもイメージが広がると思います。

Kouichi Korenaga

僕のサスティナーの使い方は3種類に大別できます。ひとつめはクリーン系の音をのばす使い方、ふたつめはハーモニックス・モードを使って、ある種のエスニック楽器のニュアンスを取り入れること。最後は最近トライし始めたんですがパーカッシブ／ノイズ系の音。例えばピッチシフターを使ってカリンバやスリットドラム的な音をつくったり、シンセのパルス波＋ベンダー的なものをシミュレートしたりしています。

Takeshi Honda

特殊かどうかわかりませんが、僕が良く使うのが強力に歪ませてワウをかけ、強くゲートをかけてハーモニックス・モードで12フレットあたりを適当にタッピングするというやつです。ゲートによって突然ハーモニクス・サウンドが出たり入ったりするという面白い効果があります。普通の音からハーモニクス・サウンドになる途中を省略しているところがミソです。

Takeshi Nishiyama

サスティナーは音作りの時にも役立つんじゃないかと。例えば音自体は気に入ってるけど、もうひと息長いサスティンが欲しい。そういう時、普通はゲインを上げてさらにドライブさせちゃう。そうすると せっかく作った良い音が潰れてもともこもなくなっちゃう。でも、そこでサスティナーを使うと、サスティンだけを増やせますよね。歪ませるタイプのギタリストにとっては音の艶とサスティンというのは永遠のテーマですからね。

Atsushi Yokozeki

普通のギターだったらトーンを丸くするとサステインも減っちゃうじゃないですか。でもそこでサスティナーを使うと、丸い音のまま伸びる。そういう部分でサスティナーを使うようになったということもありますね。始めのうちはもっぱら効果音的な使い方をしてたんですよ。でも最近はサスティナーを使ってメロディを弾くようになったし、曲作りの段階からサスティナーを使用するようにもなりました。

Kazuhide Shirota

俺はいつもミックス・モードで使ってます。微妙なんですけど元音が1.5秒くらい続いて、そこからハーモニックスが重なってくる感じが色っぽいんじゃないかなと思って、ピッキングなしで音程だけがコロコロ変わるフレーズができるんですよ。あと8フィンガー奏法にも使えますね。あとはクリケット奏法。あれとサスティナーのハーモニックス・モードを組み合わせると、いやらしくて良い音がするんですよ(笑)。

Toshiya"RAN"Matsukawa

これまでは制約が多くて確実性に欠けていたフィードバックを自分でコントロールできるということが一番大きな利点だと思うね。特にライブにおいてはお客に背を向けるということは舞台芸人としてタブーなんで(笑)。ステージの一番前に立っても自分のフィードバックが得られる状態。それに慣れていようが何してようが、ずっとフィードバックが伸びているってことが、すごく視覚的に訴えるものがあると思う。

Hide

プリプロにサスティナーは本当に役立ってるんですよ。僕は今デモテープをほとんど自宅作業で作っていて、ギターもライン録りでそのままハード・ディスクに落としたりしているんですけど、そこに加えてフィードバック的な音が欲しくなった時、サスティナーはすごく助けになりますね。ソロ・アルバムの曲も、プリプロの段階ではほぼ全曲サスティナーのお世話になったと思うし、クオリティの高いデモテープが作れますよ。